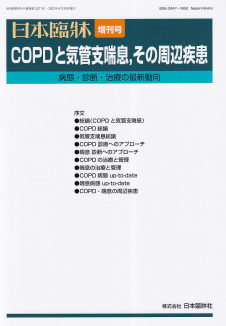
同窓著書紹介

矢野　敬文（昭54卒）他　著
COPDと気管支喘息、その周辺疾患
―病態・診断・治療の最新動向―
日本臨床社



このたび、老舗の医学総合雑誌、日本臨床の特別増刊号『COPDと気管支喘息、その周辺疾患』（日本臨床社）を共著で刊行しました。十年程前のコラム（同窓会々報・平成23年7月25日）で、診断学の共著（症候診断トレーニングDS）のご紹介以来となります。COPD・気管支喘息に関して、一〇〇項目にわたる最新の知見、トピックスが、平易に解説されています。両疾患は日常臨床で避けて通れない〝common diseases〟ですが、この項目を俯瞰してみますと、興味ある大切な臨床テーマがたくさん残されていることが解ります。この中で、私は『肥満と喘息』について解説しています。この内容の一部には、本学一内科の川山智隆教授（平2卒）グループの大牟田エリアでの喘息症例とBMIのコホート研究の最新データや肥満（症）を慢性炎症と認識して肥満喘息病態を考察することなどなど、興味深い知見をご紹介しています。炎症といえば、かつて炎症論を初めて（?）ロジカルに解説したのはJohn Hunterでした。以前、この炎症論を医学部の講義で紹介したことを記憶していますが、感染免疫の著しい進展が見られる今の時代にも顧みられてよいのではと思っています。

さて、ある高名な医師の言葉ですが、『最近、世の中のどこを見ても、哲学を持った人が少なくなった。考えながら人生を生きれば、自然と哲学を持つようになる。考えて臨床をしていれば、臨床医は医者の哲学を持つ。考えて政治をするものは政治家の哲学を持つ。哲学を持った人間が見当たらなくなったということは、習慣で生き、ただ決まりに従って生きる人間ばかりになったということであろうか』。気がつけば前期高齢者の仲間入りをしている私ですが、このコロナ禍で何かと多忙な臨床の日々、それでも、それでもです、『万年研修医の志』を忘れず、個々の患者さんの病態生理を考えながら診療していけたらと思っています。最近の文献によれば紙媒体の方が電子書籍より、理解力も読む速度も速いそうです。電子書籍は便利ですが、文献をじっくり読み込むときは、私もプリントアウトして読みます。是非、この書籍をお手元に置いて熟読いただければと存じます。学内神陵文庫をはじめ大型書店、アマゾン通販サイトでどうぞ。

【著者紹介】

矢野　敬文（やの　たかふみ）

一九五四生れ。一九七九年久留米大学医学部卒業。第一内科入局後、一般内科及び呼吸器病学を研修し、米国ジョーンズ・ホプキンス大留学、講師を経て、国立九州医療センター初代呼吸器科部長を歴任。平成十三年から久留米市田主丸町で医療法人やのクリニックを開業。国立九州医療センター臨床顧問、浮羽内科医会会長、現在に至る。

趣味　ウクレレ弾き語り、自転車（ロード）、トレッキング、ダジャレ?

モットー　医療にユーモアを忘れないで